

序：地球上空に見えない破れ口があります。オゾンホールです。オゾン層は、地球全体を包む酸素の層で、宇宙からの有害な宇宙線・紫外線等を防御する役目を果たしています。ですが、過去にポツカリと見えない穴が南極上空にできたのです。オゾンホールとして。それは人類が豊かさ・便利さを追求した結果、地球環境破壊に繋がったのです。原因は、不要になったエアコン、クーラー等からのフロンガスを大気中に放出した結果、オゾン層に穴が開いたのです。これは言わば、地球の「破れ口」と言えるでしょう。でも感謝な事に、今は地球の自己修復力・回復力で穴は徐々に縮小化されつつあるそうです。

今回は、聖書中の「破れ口」について考えます。「破れ口」とは、綻びや欠陥を示唆します。目に見える可視的な破れ口もあれば、目に見えない不可視的・霊的な破れ口もあるでしょう。

皆さんの身の回りにも破れ口はありませんか？ あなた自身に破れ口はありませんか？ あなたの職場・学校・家庭・教会に破れ口はないでしょうか？ それを見つけたなら、どう対応すれば良いのでしょうか？

本日は、①破れ口に立つモーセ、②破れ口に立つ人の不在、③破れ口をふさぐキリストの 3 項目について考えます。

1、破れ口に立つモーセ

「それゆえ神は『彼らを滅ぼす』と言われた。もし神に選ばれた人モーセが、滅ぼそうとする激しい憤りを避けるために、御前の破れ口に立たなかったなら、どうなっていたことか」(詩篇 106 : 23)。

旧約聖書に、モーセの時代に破れ口が存在したと詩篇の記者は言います。出エジプト後の「荒野の教会」時代の出来事です。イスラエルの民は、シナイ半島で金の子牛像を造り、偶像礼拝の罪を犯したのです(出エジプト 32 章)。それは、モーセが長期間にわたり不在になったので、民が不安になったのが原因でした。

イスラエルの民がつくった信仰的、霊的な破れ口です。神は怒り、イスラエルの民を滅ぼそうとされましたが、神の人モーセが「とりなし役」を買って出たのです。「あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわいを思い直してください」と祈りました(出エジプト 32 : 12)。モーセは、自分の生命を懸けて、その破れ口を塞ごうとしたのです。それ故に、「主はその民の下すと仰せられたわざわいを思い直された」とあります(出エジプト 32 : 14)。神の厳しい審判は、モーセがとりなす事で回避されました。

我々人間は、欠点を持ち弱い存在です。人は神の前で罪を犯し、自らに破れ口を持っています。破れ口の無い人間はいません。故に、人がつくる営みや組織は完全ではありません。どこかにほころびや、欠陥があります。どの様な場所、どの様な時にも、破れ口をつくる可能性と危険性があります。破れ口がない完璧な営みが成就するのは、将来的に天の御国に到達した時だけです。

大切なことは、破れ口を作らない事ではありません。破れ口が生じた時に誰が、どう対応するか、でしょう。すなわち、私たちの「危機管理能力」が問われているのです。

破れ口を見つけたなら、破れ口をつくってしまったなら、まず祈りましょう。自分が原因ならば、まず主に謝罪をし、悔い改め、祈りましょう。そこから修復は始まるのです。モーセは、それを実行して破れ口を見事に塞ぎました。

2、破れ口に立つ人の不在

時代は進み、エゼキエルの時代を見てみましょう。エゼキエル 22 : 30 を読みます。「私がこの国の為に、私の前で石垣を築き、破れ口を修理する者を彼らの間に探し求めたが、見つからなかった」。

破れ口は存在しても、破れ口を修理する人がいなかったと記されています。もし町を防御する城壁に破れ口があり、それを知っていたとします。しかし破れ口を修理する者がいないとするなら、これは大問題です。その破れ口から敵の侵入をゆるし、町が滅亡する危機に陥ってしまいます。

日本のことわざに「蟻の穴から堤の崩れ」ということばがあります。破れ口は、最初は小さいのです。その小さいうちに破れ口は、塞がねばなりません。それを放置すると、徐々に破れ口は拡大し、ついにそこから滅びへと大きく崩れてゆきます。

又、ここで教えられる事は、破れ口を塞ぐ鍵は「人材」だという事です。これを防ぐには、レンガや石材・木材ではなく「人」です。「マンパワー」が必要です。モーセのように破れ口の前に立つ人が必要なのです。破れ口をつくるのも人なら、破れ口を防ぐのも人です。キリスト者の祈り、とりなしをする人が必要です。

3、破れ口をふさぐキリスト

では、新約聖書ではどうでしょうか。イエス様と 12 弟子がつくった新約の「最初の教会」には破れ口があったでしょうか。イエス様は、完全無欠な神であられたので、その教会に破れ口は存在しなかったでしょうか。そうではありません。

12 弟子の中に、破れ口をつくった者が二人もいたのです。ユダとペテロです。彼等はキリストを否み、かつ裏切りました。ユダは金銭でイエス様を売り渡し、ペテロは三度もイエス様を知らないと否定しました。

この破れ口に対して、主は未然に防ぐ行動に出ました。ペテロは最初「たとい、一緒に死ななければならいとしも、私はあなたを知らない等とは決して申しません」と豪語していました（マルコ 14 : 31）。

しかし主は、ペテロに対して「私は、あなたの信仰がなくならないように、あなたの為に祈りました。だからあなたは立ち直ったら、兄弟を力づけてやりなさい」（ルカ 22 : 32）と祈って下さいました。イエス様はペテロが破れ口をつくる事を未然に察知し、修復の為のとりなしの祈りをして下さっていたのです。

この出来事からわかることは、人は自分自身の破れ口をほとんど気づかず、認識していないということです。自分の目からは、綻びが見えにくくなっているのです。客観的な第三者の視点からはよく見えるのですが、本人には自分の欠点や短所に実に無頓着なのです。

又、ユダに対してイエス様は、どう対応されたのでしょうか。ユダは「過越祭の夕食」の途中で席を立ち、官憲に主を売り渡そうと外の暗闇に出て行きました。イエス様はユダが今後、どのような行動に出るのかも、事前に知っておられました。彼は銀貨 30 枚でイエス様を権力者に売り渡したのです。

そして、イエス様がゲッセマネの園で祈っている時に、ユダは官憲を伴い、逮捕する為に再び主の前に現われたのです。さらに、偽りの口づけで主に接近したのです。そのユダを見て、イエス様は何と言われたかをご存知でしょうか？

短気な私だったら「引き下がれ、裏切り者」と彼に罵声を浴びせたに違いありません。だがイエス様は違っていたのです。「友よ」と言われたのです（マタイ 26：50）。主は自分を売り渡した裏切り者のユダを「友よ」と呼びかけたのです。それは、最後の最後まで自分を裏切ったユダを諦めずに、悔い改めに導こうされたのではないのでしょうか。イエス様は、彼がつくった破れ口を最期まで修復しようと努力されたのです。

実は、新約聖書には「破れ口」ということばは、一度も登場しません。しかし、イエス様は二人の弟子がつくった破れ口を認識し、その修復をしようとされました。そして、二人の罪の為に自ら十字架の上で、彼らの受ける罰を身代わりに受けて下さいました。「父よ。彼らをお赦しください」ととりなしを祈られました（ルカ 23：34）。イエス様は自らのからだをはって、彼らの破れ口を塞ごうとされました。十字架の贖いによってのみ、どんな破れ口も完璧に修復されるのです。

話は飛びますが、皆さんはアンパンマンをご存知でしょう。原作者のやなせたかし氏は、アンパンマンを愛と優しさと正義感にみちたスーパーヒーローにし、子ども達が大好きなキャラクターに仕上げました。私は作者がキリスト者であるので、アンパンマンをキリストのひな形・前味・写し絵にされたと思っています。アンパンマンは、誰かがお腹をすかし、力が出ない時、甘いアンパンで作られている自らの顔をその人に食べさせて元気を回復させるのです。相手に破れ口があった時、自らのいのちを削ってでも、懸命に修復しようとします。アンパンマンに主にある「愛の神学」を見るのです。

最後の段落ですが、パウロは主がご自身の身をもって破れ口を塞がれた行為を、自分も見習おうとしてこう言います。コロサイ 1：24 を読みます。「ですから私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そしてキリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは教会のことです」と。

パウロは、キリストの教会には「破れ口」と同様に「欠けたところ」があると言い、自らが「欠けたところ」を満たしていると述べました。それは、主がこの様に手本を示されたからでしょう。

私たちの教会にも当然「欠けたところ」や「破れ口」は存在します。それは最初、目立たず、気づかず、小さいものです。放置すると拡大化する危険があります。小さいうちに対処しましょう。

そして、イエス様に助けを求めましょう。主のとりなしを願いましょう。主は最善の道を示して下さいます。

また祈って示されたのなら、自分の出来る範囲で、破れ口を修復しようではありませんか。自

分の持っている賜物と奉仕を修繕の為に生かしていきたいと思います。あのオゾンホールが修復されていった様に、その破れ口もきっと良い解決の方向に回復されてゆくと信じます。祈ります。

(終り)